

司会 では最後に、研究をしていこうという若い人たちに、一言何かございましたら。

鈴木 「テーマは狭く、視野は広く」ということが大事だと思います。卒論を書こうという方の場合は、2年くらいで卒論を書かないといけないではないですか。しかも、語学能力が高い方もいるかもしれませんが、一般的にいえばそうたくさんは読めないのです。そうすると、自分の興味のあるテーマの核心に近いところで、扱えるくらいの量の史料を扱うのが大切だと思うのです。非常に大きな夢はあるかもしれませんが、その夢を追うとやけどをするので。ただ、扱うときにそれだけではなく、学説的には広くまわりをあさって、「これはうちの国じゃないから」と言わないで、アルジェリアをやっている人もモロッコやチュニジアのことも見ておくと違うと思うのですね。言語能力が5倍あれば、時間が5倍あるのと同じです。時間と言語能力の積がやれる実力ですから。ですから、自分の言語能力を考えて、コンパクトで、オリジナルの成果が出せそうで、少なくとも自分の視角からは、今まで扱われていない史料を見つけるのが、非常に重要だと思うのです。

卒論というのは「職人候補」になれるかどうか試すもので、修士は「職人資格」なのですよ。一人前の職人として親方に雇ってもらえるかどうかということです。いまは雇ってもらうのではなくて、博士課程に入りますけれど、博士論文が書けそうにない人を博士課程に入れてしまうと、お互い困るわけでしょう。4年か5年、やったあとで「やっぱりダメだ」ということになると、日本の場合はリターンマッチが難しいから大変なのです。ですから、修論までは、材料を作法に従って扱って、結論を出せて、その結論を人がわかるかたちで表現できるかどうか、問題なのです。本当にやりたい、大きいことを始めるのは、博士課程に入ってからというのが、安全です。私の場合も博士論文を出すまでに7年かかっているのですが、その分、相当時間もかけられるし、外国に行く時間もできます。本当に大きい問題をいつも意識していれば、視野はいつも広く保てるのです。そうだけれど卒論と修士論文は、コンパクトにまとめる方法と、材料をきちんと扱える技術と、それから注の付け方といった技術的なものも完全に身につけることが大事です。言ってみれば、お客さんに出せる料理がつかれるようになるということですね。寿司職人にしても、てんぷら揚げ職人にしても。これができるようになるのが修士課程だと思います。博士課程に入ってから、オリジナルの、マイステルになるための本格的なことを始めるのが安全だろうと思います。あとは言葉ですよ。自分の専門についてのことは、対象になる言語で、読めて、しゃべれて、書けるという3つができるのが大変重要だと思います。

司会 貴重なお話、ありがとうございました。

鈴木董先生——業績——

1972年

- ・『オスマン・トルコ政治エリート変遷史序説—最盛期の集権体制とカプセル・エリート』、東京大学大学院法学政治学研究科修士論文、1972年。

1978年

- ・「活版印刷術と東地中海世界」『地中海学会月報』第7号、8頁、地中海学会、1978年2月。
- ・「近代トルコ散文学の黎明」『月刊シルクロード』4巻5号、34-37頁、1978年6月。

- ・「オスマン・トルコ社会思想の一側面—有機体的社会観の展開」『イスラーム世界』第14号、1-21頁、日本イスラーム協会、1978年7月。
- ・「一冊のテキストと一冊の辞書と」『中東ハンドブック』松本重治・板垣雄三編、379-381頁、平凡社、1978年。

1979年

- ・「読書案内—『ナスレディンホジャ物語』護雅夫訳、平凡社東洋文庫38、1965年」『地中海学会月報』第22号、8頁、地中海学会、1979年9月。

1980年

- ・「中東問題の底流にあるもの—トルコのケースを中心に」『月刊貿易政策』21巻2号(通号248号)、20-24頁、通商政策研究会、1980年2月。
- ・「表紙説明・都市の古地図シリーズ10：オスマン・トルコ人の見たマルセイユ」『地中海学会月報』第30号、2頁、地中海学会、1980年5月。
- ・「月例研究会要旨：オスマン・トルコにおける国家の興亡観」『地中海学会月報』第35号、6頁、地中海学会、1980年12月。

1981年

- ・「トルコに於ける議会制的伝統とその危機」『中東通報』第276号、44-49頁、中東調査会、1981年5月。
- ・「中東イスラーム世界に於ける国際体系の伝統と西洋の衝撃」『国際政治』第69号、93-107頁、日本国際政治学会、1981年10月。

1982年

- ・『オスマン・トルコ支配エリートの研究—回歴700-1200年』、東京大学大学院法学政治学研究科博士論文、1982年。
- ・「イブラヒム・ミュテフェッリカ」「エヴリヤ・チェレビー」「カーヌーン」「カラギョズ」「キヤーティプ・チェレビー」「宮廷」「キョプリユリユ家」「ナイーマ・エフェンディー」「ハンマー・ブルクシュタル」『イスラーム事典』日本イスラーム協会・嶋田襄平・板垣雄三・佐藤次高監修、平凡社、1982年4月。
- ・「トルコ文学とフランス文学」『地中海学会月報』第53号、6頁、地中海学会、1982年10月。
- ・「後期オスマン帝国における支配エリートの変容について—実務官僚層の「台頭」の問題を中心に」『82史学会第八十回大会プログラム』16-17頁、史学会、1982年11月14日。
- ・「オスマン・トルコのエリートについて」『日本オリエント学会第24回大会研究発表要旨』、2-8頁、日本オリエント学会、1982年11月。
- ・「後期オスマン帝国における支配エリートの変容について—実務官僚層の「台頭」の問題を中心に」『史學雑誌』第91編第12号、84頁、史学会、1982年12月。

1983年

- ・「オスマン帝国の古都ブルサ」『レポートくまがい』第72号、1-2頁、株式会社熊谷組、1983年3月。
- ・「オスマン帝国におけるイスラームの世界帝国の完成」『中東イスラーム世界の政治的伝統』(1983年度

総合科目)、5-7 頁、千葉大学教養部、1983 年 4 月。

- ・「現代中東における共存様式の崩壊と国際紛争—キプロス紛争を中心として」『国際政治』第 73 号、44-63 頁、日本国際政治学会、1983 年 5 月。
- ・「ホサム著／護雅夫訳『トルコ人』」『季刊東西交渉』第 6 号、42-43 頁、井草出版、1983 年 7 月。
- ・「回顧と展望—西アジア・北アフリカ イスラム時代」『史學雑誌』第 92 巻第 5 号、260-264 頁、史学会、1983 年 11 月。
- ・「軍事・行政制度—オスマン帝国の場合」『中近東文化センター研究会報告(シンポジウム「アラブとアジャム(非アラブ)』)』第 4 号、153-167 頁、中近東文化センター、1983 年 12 月。

1984 年

- ・“The Traditional Origin of Secular Intellectuals in the Ottoman Empire,” *Proceedings of the 31th International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa*, vol. II p. 732, Tokyo: Toho Gakkai, 1984 年。
- ・「〈基本文献ライブラリー 2〉現代トルコ理解のために」『Maydan』第 2 号、14-15 頁、国際大学中東研究所、1984 年 10 月。

1985 年

- ・「トルコ—発展と連合政治の危機」『中東の開発と統合』(アジアを見る眼: 67)、(宮治一雄編)、187-205 頁、アジア経済研究所、1985 年 3 月。
- ・「トルコのクーデター」『国際年報』第 21 巻(1979-80 年版)、516-523 頁、日本国際問題研究所、1985 年 3 月。
- ・「史上最強・オスマン帝国」『イスラムの戦争』(世界の戦争: 3)、牟田口義郎編、319-355 頁、講談社、1985 年 6 月。
- ・「トルコの国際秩序観」『IPSHU 研究報告(イスラム世界と国際秩序—第 9 回広島大学平和科学シンポジウムの記録)』第 13 巻 1-18 頁、広島大学平和科学研究センター、1985 年 10 月。
- ・「権力構造と「家」—オスマン帝国の場合」『シンポジウム「中近東・イスラーム社会における族的結合」』(中近東文化センター研究会報告: 6)、川床陸夫編、99-112+279-282 頁、中近東文化センター、1985 年 12 月。
- ・「第 9 回地中海学会大会シンポジウム発表要旨 イスタンブルと江戸と—二つの古都の対比をめぐって」『地中海学会月報』第 85 号、3 頁、地中海学会、1985 年 12 月。

1986 年

- ・「イスタンブルのスレイマニエ図書館について」『図書館の窓(東京大学附属図書館月報)』第 25 巻第 1 号、1-3 頁、東京大学附属図書館、1986 年 1 月。
- ・「官僚の世界」『イスラム・社会のシステム』(講座イスラム: 3)、佐藤次高編、79-106 頁、筑摩書房、1986 年 4 月。
- ・「征服と都市建設—オスマン帝国 1300-1481 年 (<共同研究>地中海都市の文化構造)」『地中海学研究』第 9 号、15-22 頁、地中海学会、1986 年 5 月。
- ・「オスマン帝国の統治機構—比較史的的分析」『統治機構の文明学』梅棹忠夫・松原正毅編、299-337 頁、中央公論社、1986 年 6 月。

- ・「スレイマン大帝時代オスマン朝の大宰相と宰相たち(1)」『東洋文化研究所紀要』第101冊、1-71+i頁、東京大学東洋文化研究所、1986年11月。
- ・「アヤソフィア」「イェニチェリ」「イズミル」「エヴリヤ・チェレビィ」「エディルネ」「オスマン帝国」「コンスタンティノープル」「書道」「スレイマニエ」「スレイマン1世」「隊商」「トプカプ宮殿」「バザール」「ハレム」「ビザンチン帝国」「羊」「ブルサ」「マドラサ」「メフメット2世」「浴場」「レパント海戦」「小年表」『エナジー小事典第八号 地中海小事典』、エッソ石油株式会社広報部、1986年12月。

1987年

- ・“Osmanlılarda Organik bir Yapı olarak Toplum Görüşünün Gelişmesi: Osmanlı Sosyal Düşünce Tarihinin bir Yönü,” *Gelişme Dergisi*, 14-4, pp. 373-396, Ankara: Orta Dogü Teknik Üniversitesi, İdari İlimler Fakültesi, 1987年。
- ・「18世紀初頭オスマン帝国の遣欧使節制度と「使節の書」—ウィーン派遣大使シラフタール・イブラヒム・パシャの事例」『東洋文化』第67号、251-279頁、東京大学東洋文化研究所、1987年3月。
- ・「スレイマン大帝時代オスマン朝の大宰相と宰相たち(2)」『東洋文化研究所紀要』第103冊、1-79+i頁、東京大学東洋文化研究所、1987年3月。
- ・「オスマン帝国とビザンツ帝国の戦い—4世紀の攻防」『歴史読本特別増刊号：戦争の世界史』、86-89頁、新人物往来社、1987年4月。
- ・「前近代オスマン帝国における軍人と軍隊の変遷過程」『日本中東学会第三回年次大会プログラム』、5頁、日本中東学会、1987年4月。
- ・「セリム1世の対マムルーク朝遠征と征服地における支配体制組織化の過程—トプカプ宮殿附属古文書館所蔵 D9772号文書の再検討によせて」『オリエント』第30巻第1号、90-107頁、日本オリエント学会、1987年9月。
- ・「中東における統合と共存の伝統とその変容についての一省察—オスマン帝国のケースを中心として」『国際政治』第86号、39-53頁、日本国際政治学会、1987年10月。
- ・「世紀末オスマン文化の仕掛人—アフメット・イフサン・ベイのこと」『トルコ文化研究』第2号、21-25頁、トルコ文化研究会、1987年10月。

1988年

- ・「スレイマン大帝時代オスマン朝の大宰相と宰相たち(3)」『東洋文化研究所紀要』第106冊、35-94+ii頁、東京大学東洋文化研究所、1988年3月。
- ・「西アジアの近代化—オスマン帝国の滅亡」『週刊朝日百科・世界の歴史』通巻第638号、344-347頁、朝日新聞出版、1988年5月。
- ・「トルコにおける「国民国家」形成とアイデンティティーの変容(特集：エスニックの視点)」『外交時報』第1253号、36-44頁、外交時報社、1988年11月。
- ・「後期オスマン朝におけるイェニチェリ軍団上層部の昇進過程について」『昭和63年度東洋史研究会大会発表要旨』、7頁、東洋史研究会、1988年11月。

1989年

- ・“Process of Traditionalist Revolution in the Ottoman Imperial Capital: An Attempt of Politico-

Sociological Analysis,” *The Proceedings of International Conference on Urbanism in Islam (ICUIT) 22-28/October/1989*, Vol. 5 Supplement: pp. 219–228, Tokyo: Research Project “Urbanism in Islam” & the Middle Eastern Culture Center in Japan, 1989 年。

- ・「異なる地域の都市の比較は可能か—オスマン帝国の帝都イスタンブルをめぐって」『イスラムの都市性・研究報告 研究会報告編』第9号、18-24+63-64 頁、文部省科学研究費重点領域研究「イスラムの都市性」事務局、1989 年9月。
- ・「イスラム国際体系(国際体系の実体と思想)」『国際政治の理論』(講座国際政治:1)、(山本吉宣他編)、81-111 頁、東京大学出版会、1989 年9月。
- ・「実務家と政治家の間—オスマン帝国の官僚たち」『週刊朝日百科・世界の歴史』通巻第716号、302-303 頁、朝日新聞出版、1989 年10月。
- ・「バルカン史におけるオスマン朝史料の意義」『東欧史研究』第12号、87-92 頁、東欧史研究会、1989 年12月。
- ・“The Governance Structure of the Ottoman Empire: A Comparative Historical Analysis,” *Senri Ethnological Studies* 25, pp. 133–153, Osaka: National Museum of Ethnology, 1989 年12月。
- ・「後期オスマン朝におけるイエニチェリ軍団上層部の昇進過程について」『東洋史研究』第47巻第3号、164 頁、東洋史研究会、1989 年12月。

1990 年

- ・“Kanunî Sultan Süleyman’ın Vezirazamları ve Vezirleri: Tanınmış Siyasî Şahsiyetler Tarihi bakımından bir İnceleme,” *V. Milletlerarası Türkiye Sosyal ve İktisat Tarihi Kongresi Tebliğler*, pp. 885–888, Ankara: TTK, (in Turkish), 1990 年。
- ・「都市における「対抗運動」と比較イスラム都市社会論」『イスラム都市社会の形成と変容に関する比較研究』(昭和63年—平成元年度科学研究費補助金(国際学術研究)研究成果報告書 研究課題番号63041035)、佐藤次高編、123-133 頁、1990 年3月。
- ・「近代軍」形成期のオスマン帝国における軍人と政治—1826-1908 年」『1989 年度政治学年報・近代化過程における政軍関係』187-209 頁、日本政治学会、1990 年3月。
- ・「スレイマン1世」『週刊朝日百科・世界の歴史』通巻第739号、434-439 頁、朝日新聞出版、1990 年3月。
- ・「オスマン帝国と対外的コミュニケーション」『移動と交流』(シリーズ世界史への問い:3)、(濱下武志編)、55-84 頁、岩波書店、1990 年4月。
- ・「イスラム帝国の戦争と平和—オスマン帝国と近代西欧国際体系」『週刊朝日百科・世界の歴史』通巻第748号、490-494 頁、朝日新聞出版、1990 年5月。
- ・「古都ブルサーオスマン帝国の最初の首都(トルコ・イラン・シルクロード)」『地中海文化の旅 2』(地中海学会編)、124-128 頁、河出書房新社、1990 年6月、(『レポートくまがい』1983 年より転載)。
- ・「18 世紀初頭オスマン朝の一官人の経歴について—バリ派遣大使イルミセキズ・チェレビィ・メフメット・エフェンディの場合」『オリエント学論集—日本オリエント学会創立三十五周年記念』(日本オリエント学会編)、273-294+xv 頁、1990 年7月。
- ・「イブラヒム・パシャの時代」『週刊朝日百科・世界の歴史』通巻第759号、564-567 頁、朝日新聞出版、1990 年8月。

1991年

- ・「帝都からメガロポリスへ—近代イスタンブルの1世紀半 1826-1990」『イスラームの都市性—全体集會報告書』「イスラームの都市性」事務局編、88-98+157頁、第三書館、1991年7月。
- ・「読書案内—羽田正・三浦徹編『イスラーム都市研究(歴史と展望)』」、東京大学出版会、1991年、vii+363頁、定価5800円」『地中海学会月報』第143号、8頁、地中海学会、1991年10月。

1992年

- ・「『地中海I 環境の役割』フェルナン・ブローデル著」『東京新聞』第17778号、10面、東京新聞社、1992年1月18日。
- ・「チューリップ時代のイスタンブルにおける詩人と泉—18世紀初頭オスマン朝の都市文化の一側面(特集:都市からみたアジア)」『東洋文化』第72号、235-252頁、東京大学東洋文化研究所、1992年3月。
- ・「後期オスマン帝国における没落観と改革論」『東洋文化研究所紀要』第118冊(創立50周年記念論集 III)、193-265+vii-ix頁、東京大学東洋文化研究所、1992年3月。
- ・「イスラーム世界の書物と図書館」『Mare Nostrum(地中海文化研究報告)』第4巻、34-42頁、地中海文化研究会、1992年3月。
- ・「アナール派不朽の名著—地中海世界を統一把握:フェルナン・ブローデル著、浜名優美訳『地中海I』」『機』通巻14号、12-13頁、藤原書店、1992年3月、(『東京新聞』第17778号からの転載)。
- ・「オスマン帝国—イスラーム世界の「柔らかい専制」(講談社現代新書:1097)、講談社、1992年4月。
- ・「地中海人物夜話詩人ネディム」『地中海学会月報』第149号、4頁、地中海学会、1992年4月。
- ・「アナール派不朽の名著—地中海世界を統一把握」『書評集『地中海』』、9-10頁、藤原書店、1992年5月、(月刊『機』第14号より転載)。
- ・「都市へのまなざし 地理書・旅行記にみる都市 エヴリヤ・チェレビーにみる都市」『事典イスラームの都市性』板垣雄三・後藤明編、71-72頁、亜紀書房、1992年5月。
- ・「都市の性格 巨大帝国の中心都市 イスタンブル(オスマン帝国)」『事典イスラームの都市性』板垣雄三・後藤明編、154-155頁、亜紀書房、1992年5月。
- ・「都市の内部ネットワーク 都市のエスニシテイ トルコのユダヤ教徒」『事典イスラームの都市性』板垣雄三・後藤明編、325-326頁、亜紀書房、1992年5月。
- ・「都市の内部ネットワーク 都市の名士 トルコ」『事典イスラームの都市性』板垣雄三・後藤明編、361-363頁、亜紀書房、1992年5月。
- ・「生活の場としての都市 神秘主義教団と都市 トルコ」『事典イスラームの都市性』板垣雄三・後藤明編、466-468頁、亜紀書房、1992年5月。
- ・「イスラーム圏諸地域の都市 トルコ・バルカンの都市 ブルサ」『事典イスラームの都市性』板垣雄三・後藤明編、618頁、亜紀書房、1992年5月。
- ・「オスマン帝国とフランス革命—イスラーム世界と近代西欧世界の同時代的接触のひとこま」『フランス革命と周辺国家—歴史と社会』(歴史と社会:12)、田中治男・木村雅明・鈴木董編、59-106頁、リポート、1992年6月。
- ・「祝祭と革命のイスタンブル—オスマンの歴史が展開された広場」『週刊朝日百科・世界の歴史別冊「旅の世界史—広場物語8」』通巻第859号、18-23頁、朝日新聞出版、1992年6月。
- ・「世界戦史再現—1453年オスマン帝国 vs ビザンツ帝国」『コンスタンティノープル陥落—ビザンツ

帝国千年の帝都最期の日』『歴史群像』創刊号、43-51 頁、学習研究社、1992 年 6 月。

- ・「イスタンブルはトルコ語か(中東)」『100 問 100 答 世界の歴史 2 中東・アフリカ』歴史教育者協議会編、150-152 頁、河出書房新社、1992 年 7 月。
- ・「イタリア・ルネサンスの芸術家たちのパトロンだったトルコ皇帝(中東)」『100 問 100 答 世界の歴史 2 中東・アフリカ』歴史教育者協議会編、153-155 頁、河出書房新社、1992 年 7 月。
- ・「トルコ帽は、トルコの帽子か(中東)」『100 問 100 答 世界の歴史 2 中東・アフリカ』歴史教育者協議会編、171-174 頁、河出書房新社、1992 年 7 月。
- ・「アンドレ・クロア著、浜田正美訳『スレイマン大帝とその時代』』『東京新聞』第 17941 号、10 面、東京新聞社、1992 年 7 月 5 日。
- ・「スレイマン大帝—16 世紀の地中海世界とオスマン帝国」『Köprü 通信』第 10 巻、2 頁、日本トルコ文化協会、1992 年秋。
- ・「紹介—羽田正・三浦徹編『イスラム都市研究(歴史と展望)』、東京大学出版会、1991 年」『オリエント』第 35 巻第 1 号、196-197 頁、日本オリエント学会、1992 年 9 月。
- ・「表紙説明・地中海の肖像「メフメット 2 世」』『地中海学会月報』第 152 号、2 頁、地中海学会、1992 年 9 月。
- ・「オスマン帝国の政治システムとその衰退」『高校通信・東書 日本史／世界史』第 186 号、1-3 頁、東京書籍、1992 年 9 月。
- ・「帝都イスタンブルとオスマン権力(シリーズ：イスラームの都市性 9)」『学術月報』第 45 巻 10 号(通号 574 号)、62-68 頁、日本学術振興会、1992 年 10 月。
- ・「表紙説明・地中海の肖像「スレイマン大帝」』『地中海学会月報』第 153 号、2 頁、地中海学会、1992 年 10 月。
- ・「民族の都 10 トルコ・イスタンブル」『アジアとヨーロッパの交差点』『Voice』1992 年 10 月号、13-16 頁、PHP 研究所、1992 年 10 月。
- ・「歴史書紹介・著者紹介：注目の一冊その人に聴く 3「世界史を複眼的に描く鈴木董『オスマン帝国』」(遠藤隆 取材・文)『歴史群像』第 3 号、153 頁、学習研究社、1992 年 10 月。
- ・「表紙説明・地中海の肖像「アフメット 3 世」』『地中海学会月報』第 154 号、2 頁、地中海学会、1992 年 11 月。
- ・「世界の博物館 Süleymaniye Library—イスタンブル」『東京大学総合研究資料館ニュース』第 26 号、6-7 頁、東京大学総合研究資料館、1992 年 11 月。
- ・「表紙説明・地中海の肖像「セリム 3 世」』『地中海学会月報』第 155 号、2 頁、地中海学会、1992 年 12 月。
- ・「「情報化」時代と図書資料」『東京大学新聞』第 1779 号(通巻第 2879 号)、2 頁、東京大学新聞社、1992 年 12 月。

1993 年

- ・「レバントの海戦」『歴史群像』第 5 号、67-82 頁、学習研究社、1993 年 2 月。
- ・「イスラム帝国としてのオスマン帝国」『国際交流』第 16 巻 1 号(通号 61 号)、60-68 頁、国際交流基金、1993 年 4 月。
- ・「イスラム世界におけるアイデンティティーの構造」『対外政策の国際調整の調査研究 4-6「アジア諸国の宗教・社会と経済発展に対する調査研究」』原洋之介編、56-64 頁、財団法人産業研究所(委

- 託先：社団法人アジア社会問題研究所)、1993年5月。
- ・『オスマン帝国の権力とエリート』、東京大学出版会、1993年6月。
 - ・『図説イスタンブル歴史散歩』(都市散歩シリーズ)、(大村次郷 写真)、河出書房新社、1993年6月。
 - ・「帝都イスタンブルとオスマン権力」『イスラームの都市性』(学振新書：16)、板垣雄三・後藤明編、260-278頁、日本学術振興会、1993年6月。
 - ・『イスラムの家からバベルの塔へ—オスマン帝国における諸民族の統合と共存』(社会科学の冒険16)、リプロボート、1993年7月。
 - ・「イスラム的世界秩序と共存問題(特集：歴史への新しいまなざし／文明と歴史 2:文明のブレイク・スルー)」『創文』第346号、11-14頁、創文社、1993年8月。
 - ・「オスマン帝国史の窓から—多民族の“共存”が伝統の時代も」『聖教新聞』第11088号、第7面、聖教新聞社、1993年8月31日。
 - ・『都市の文明イスラーム』(講談社現代新書：1162 新書イスラームの世界史：1)、佐藤次高・鈴木董編、講談社、1993年9月。
 - ・「第17回地中海大会シンポジウム要旨：大航海時代の地中海」『地中海学会月報』第162号、4頁、地中海学会、1993年9月。
 - ・「ライターの横顔：『イスラムの家からバベルの塔へ』鈴木董さん—旧ユーゴの民族紛争を新しい視点から明かす」『東京新聞夕刊』第18352号、4面、東京新聞、1993年9月4日。
 - ・『パクス・イスラミカの世紀』(講談社現代新書：1166 新書イスラームの世界史：2)、鈴木董編、講談社、1993年10月。
 - ・「第二巻 プロローグ」『パクス・イスラミカの世紀』(講談社現代新書：1166 新書イスラームの世界史：2)、鈴木董編、3-9頁、講談社、1993年10月。
 - ・「イスラーム的世界帝国の登場」『パクス・イスラミカの世紀』(講談社現代新書：1166 新書イスラームの世界史：2)、鈴木董編、115-162頁、講談社、1993年10月。
 - ・「オスマン帝国とビザンツ帝国の戦い—4世紀の攻防」『別冊歴史読本特別増刊総集編：戦争の世界史』第18巻第31号、89-95頁、新人物往来社、1993年10月。(『歴史読本特別増刊号：戦争の世界史』1987年の再録)。
 - ・『イスラーム復興はなるか』(講談社現代新書：1175 新書イスラームの世界史：3)、坂本勉・鈴木董編、講談社、1993年11月。
 - ・「「西洋化」するオスマン帝国」『イスラーム復興はなるか』(講談社現代新書：1175 新書イスラームの世界史：3)、坂本勉・鈴木董編、19-70頁、講談社、1993年11月。
 - ・「読書案内—ラルフ・S・ハトックス著、斎藤富美子・田村愛理訳、『コーヒーとコーヒーハウス』同文館、1993年」『地中海学会月報』第164号、8頁、地中海学会、1993年11月。
 - ・「第4回シンポジウム—「わが国はアジア諸国の社会と経済にどのようにして共存していくべきか—アジア諸文明との共存のパラダイムを求めて」—パネルディスカッション」(原洋之助・鈴木董・藤村幸義・松島茂・水口章・宮脇博史・柳澤悠)『アジアと日本』第239号、4-33頁(トルコ：23-27頁)、社団法人アジア社会問題研究所、1993年12月。

1994年

- ・「イスラーム世界・オスマン帝国・世界地図—イスラーム世界の歴史を理解するための地歴科地図帳の効用」『世界史のしおり(特集：世界史と地図帳 その2)』1-4頁、帝国書院、1994年2月。

- ・「オスマン語をめぐる—多言語帝国としてのオスマン帝国と言語的共存(シンポジウム「文明語の比較社会史—漢文、オスマン語、中世ラテン語」)」「『史學』63巻3号、81-89頁、慶應義塾大學文學部内三田史學會、1994年3月。
- ・「中東から見た世界史—「三大陸」が交流した開かれた地域—“イスラームの衝撃”に対抗した西欧の形成」『聖教新聞』第11275号、第7面、聖教新聞社、1994年3月15日。
- ・「トルコ近代化のシンボル(地域・国別研究)(特集:民族紛争と難民)」「『国際協力』468号、28-29頁、国際協力機構、1994年4月。
- ・「近代西洋の衝撃にイスラームは如何に応えたか—政治理論・イスラーム法理論の地平から—小杉泰著『現代中東とイスラーム政治』」「『図書新聞』第2197号、2頁、図書新聞、1994年5月14日。
- ・「イスラーム世界と民族問題」『第21回栃木オリエント・セミナー』、6頁、1994年5月。
- ・「伝統的オスマン社会における奴隷の諸相(1994年度歴史学研究会大会報告要旨全体会「歴史における奴隷包摂社会」)」「『歴史学研究』第658号、34-35頁、歴史学研究会、1994年5月。
- ・「チャルディランの戦い—半世紀前の長篠の合戦」『歴史群像』第13号、120-127頁、学習研究社、1994年6月。
- ・「パクス・イスラミカからバベルの塔へ—イスラームの世界秩序の崩壊と現代(焦点:イスラーム復興主義の現在)」「『国際問題』第411号、18-29頁、日本国際問題研究所、1994年6月。
- ・『中東人国記』鈴木董編、総合法令、1994年7月。
- ・「中東とは何か」『中東人国記』鈴木董編、1-11頁、総合法令、1994年7月。
- ・「イスラームの遺産」『中東人国記』鈴木董編、43-70頁、総合法令、1994年7月。
- ・「トルコ—東西文明の交錯するところ」『中東人国記』鈴木董編、245-277頁、総合法令、1994年7月。
- ・「イスタンブールの夏」『CULTURE』第238号、5-6頁、朝日カルチャーセンター、1994年7月。
- ・「多民族国家の光と影—アメリカ合衆国とオスマン帝国と『常識のアメリカ・歴史のアメリカ』合評会に関連して」『アメリカ史研究』第17号、21-25頁、アメリカ史学会、1994年8月。
- ・「ロードス島戦記」『歴史群像』第14号、14-24頁、学習研究社、1994年8月。
- ・「外世界から・イスラーム世界」『総合的地域研究成果報告シリーズ3 文明の地域性』第3号、42-46頁、文部省科学研究費補助金重点領域研究「総合的地域研究」、1994年9月。
- ・「「地域」とは何か?」(高谷好一・應地利明・掛谷誠・家島彦一・松原正毅・阿部健一・立本成文・川勝平太・鈴木董)『総合的地域研究』第6号、21-35頁、文部省科学研究費重点領域研究「総合的地域研究」、1994年9月。
- ・「伝統的オスマン社会における奴隷の諸相(1994年度歴史学研究会大会:報告、歴史における「奴隷包摂社会」:<全体会>歴史における「奴隷包摂社会」:奴隷論の新展開)」「『歴史学研究(増刊号)』第664号、13-20頁、歴史学研究会、1994年10月。
- ・「組織と支配—後期イスラーム帝国オスマン朝の場合」『文明としてのイスラーム』(講座イスラーム世界:2)、(後藤明編)、139-182頁、栄光教育文化研究所、1994年12月。
- ・「イスラームと国際関係(アジアの国際秩序)」「『地域システムと国際関係』(講座現代アジア:4)、(平野健一郎編)、327-358頁、東京大学出版会、1994年12月。

1995年

- ・「「文明の衝突」か「文化の葛藤か」(特集「文明の衝突」と世界秩序)」「『外交時報』第1314号、20-29頁、外交時報社、1995年1月。

- ・「世界秩序・政治単位・支配組織—比較のなかの後期イスラム帝国としてのオスマン帝国」『東洋文化』第75号、167-216頁、東京大学東洋文化研究所、1995年2月。
- ・「イスラーム的世界秩序の崩壊と現代の地域紛争」『イスラームと地域紛争(平成6年度自主研究報告書)』日本国際問題研究所編、21-31頁、1995年3月。
- ・「座談会「トルコの民族と文化」をめぐって」(小松久男・松原正毅・鈴木董・林徹・永田雄三)『イスラーム世界』45号、73-96頁、日本イスラム協会、1995年6月。
- ・『食はイスタンブールにあり—君府名物考』(気球の本:1)、NTT出版、1995年7月。
- ・「知られざる軍事先進国オスマン帝国の実力—ヨーロッパ諸国を震撼させた『イスラムの衝撃』」『戦略戦術兵器事典「ヨーロッパ近代編」』第3巻、96-103頁、学習研究社、1995年10月。
- ・「多民族、多文化国家における統合原理—オスマン帝国における諸民族と諸宗教の統合と共存」『民族問題を考える』日本経済調査協議会編、98-111頁、日本経済調査協議会、1995年11月。
- ・『オスマン帝国の栄光』(「知の再発見」双書:51)、テレーズ・ビタール著・富樫環子訳・鈴木董監修、創元社、1995年11月。
- ・「オスマン帝国—帝都を二度までも包囲した異教の大国(双頭の鷲—ハプスブルク帝国の全て)」『歴史群像』第22号、30-35頁、学習研究社、1995年12月。
- ・「良薬は口に甘し—オスマン宮廷における甘味所と調薬」『is』第70号、15-19頁、ポーラ文化研究所、1995年12月。

1996年

- ・「イスタンブールのグラント・バザール—国際経済の舞台で息づく市場—バザールの世界史上の意義」『季刊民族学』第20巻第1号(第75号)、38-45頁、千里文化財団:国立民族学博物館、1996年1月。
- ・「パクス・イスラミカから現代世界へ」『イスラームに何がおきているか—現代世界とイスラーム復興』(小杉泰編)、42-61頁、平凡社、1996年1月。
- ・「イスタンブールの食の世界」『地中海学会月報』第186号、5頁、地中海学会、1996年1月。
- ・「基調報告:ブローデルの『地中海』と「イスラムの海」としての地中海の視点」『海から見た歴史—ブローデル『地中海』を読む』川勝平太編、33-67頁、藤原書店、1996年3月。
- ・“Negotiating Behavior of the Ottoman Empire: A Case Study of the Methods of Conflict Resolution of an Islamic State,” *Kyoto Conference on Japanese Studies*, vol.1 pp. 231-236, 1996年3月。
- ・「オスマン帝国の政治的統合における宗教と民族—イスラーム世界からナショナリズムを見る(民族と国家)」『思想』No. 863、134-153頁、岩波書店、1996年5月。
- ・「イエニチェリ」「イズミル」「エヴリヤ・チェレビィ」「エディルネ」「オスマン帝国」「書道」「スレイマニエ」「スレイマン1世」「隊商」「トプカプ宮殿」「ハギア・ソフィア」「バザール」「ハレム」「ビザンティン帝国」「羊」「メフメット2世」「浴場」「レパント海戦」『地中海辞典』地中海学会編、河出書房新社、1996年5月。
- ・「サイン(アラブ・トルコ世界の)」「文字(アラビア文字)」『かたちとしるし』(歴史学事典:第3巻)、黒田日出男責任編集、弘文堂、1996年7月。
- ・「イスラーム暦千年を迎えるオスマン社会(イスラームの鏡)」『地中海—終末論の誘惑』(UP選書:273)、蓮實重彦・山内昌之編、100-114頁、東京大学出版会、1996年9月。
- ・「私のベスト3(トゥーキュディデース『戦史』、ヨハン・ホイジンガ『中世の秋』、イブン・ハルドゥー

ン『歴史序説』)『東京大学新聞(読書特集号)』第1939号(通巻第3039号)、4頁、東京大学新聞社、1996年10月22日。

・「学会展望—1995年:西アジア・アフリカ」『年報政治学』1996年、287頁、岩波書店、1996年12月。

1997年

・“Osmanlı’da İdarî Geleneğin Teşekkülü ve Tatbikatı, Prof. Mehmet İpşirli üzerine Müzakere,” *XV. ve XVI. Asırları Türk Asrı Yapan Değerler*, pp. 226–228, İstanbul: Ensar Neşriyat, (in Turkish), 1997年。

・“Fatih Mütevellisi Olan Vezîrazam Pîrî Mehmed Paşa ve Onun Osmanlı Vezirleri Tarihindeki Yeri,” *II. Uluslararası İstanbul’un Fethi Sempozyumu - İstanbul, 30-31 Mayıs -Haziran ‘97*, pp. 192-195, İstanbul Büyükşehir Belediyesi Kültür İşleri Daire Başkanlığı, 1997年。

・「オスマン帝国と地域研究」『特定研究「地域研究のための方法論的課題に関する研究」報告書2』43頁、1997年。

・「多様性と開放性の帝国—オスマン帝国(帝国の生態)」『帝国とは何か』山内昌之・増田一夫・村田雄二郎編、155-180頁、岩波書店、1997年2月。

・『地歴高等地図』(帝国書院編集部編)、帝国書院、1997年3月、【共著】。

・『図説ユニバーサル世界史資料 最新版』(帝国書院編集部編)、帝国書院、1997年3月、【共同監修】。

・「知られざるイスラム芸術の本道『イスラム書道芸術大鑑』に寄せて」『月刊百科』第414号、36-40頁、平凡社、1997年4月。

・「栄華残照—トルコ・トプカプ宮殿博物館の至宝」『ミス』第507号、143-145頁、文化出版局、1997年5月。

・「コンスタンティノポリス陥落—オスマン帝国 vs ビザンツ帝国 1453年ヨーロッパ最大の城塞が大砲に屈した日」『戦略戦術兵器事典「ヨーロッパ城郭編」』第5巻、174-181頁、学習研究社、1997年6月。

・「ウィーン包囲戦—オスマン帝国 vs ハプスブルク帝国 1683年イスラムの侵攻を食い止めた近代要塞の実力」『戦略戦術兵器事典「ヨーロッパ城郭編」』第5巻、182-189頁、学習研究社、1997年6月。

・「イスタンブールの食文化史 Part 1」『季刊アナトリアニュース』第88号、26-29頁、日本トルコ協会、1997年7月。

・『オスマン帝国とイスラム世界』、東京大学出版会、1997年8月。

・「イスタンブールの食文化史 Part 2」『季刊アナトリアニュース』第89号、25-28頁、日本トルコ協会、1997年9月。

・「トルコ地域研究法(地中海地域における地域研究法)」『地域研究法』(藤原健藏編)、47-54頁、朝倉書店、1997年10月。

1998年

・“Kanunî’nin Vüzerâsı’ndan Koca Kasım Paşa’ya Dair,” *Güney Doğu Avrupa Araştırmaları Dergisi*, Vol. 12, pp. 311–318, İstanbul, 1998年。

・「オスマン帝国史と地域研究(地域研究への視点)」『世界地域学への招待—大学院への研究案内』池田修監修・大阪外国語大学特定研究プロジェクトチーム編著、415-436頁、嵯峨野書院、1998年1月。

- ・「イスラム帝国の交渉行動—オスマン帝国の場合(中近東)」『国際交渉学—交渉行動様式の国際比較』木村汎編、214-232頁、勁草書房、1998年2月。
- ・「オスマン帝国の組織とエリート研究の道程にて(わたしの5冊:57)」『中東研究』No.438、26-30頁、中東調査会、1998年5月。
- ・「イスラーム帝国としてのオスマン帝国(論点と焦点)」『帝国と支配—古代の遺産』(岩波講座世界歴史:5)、269-296頁、岩波書店、1998年9月。
- ・「オスマン帝国の言語問題(特集:地中海文明と言語:交錯する物とことば)」『月刊言語』第27巻10号、68-73頁、大修館書店、1998年10月。

1999年

- ・「討論: <都市・地域・海域世界>とイスラーム(東南アジアと中東)」(家島彦一ほか)『<地域間研究の試み>(上)—世界の中で地域をとらえる』(地域研究叢書5)、163-172頁、京都大学学術出版会、1999年1月。
- ・「政治過程と政策決定過程の歴史の変容—オスマン朝史から宋代史への比較史の一視点(特集:宋代知識人の諸相:比較の手法による問題提起)」『アジア遊学』第7号、103-110頁、勉誠出版、1999年8月。
- ・「オスマン帝国とその遺産—中東・バルカンと宗教紛争」『大航海—歴史・文学・思想』第29号、72-80頁、新書館、1999年8月。
- ・「補節:オスマン帝国とヨーロッパ(近世国家と世界経済)」『西洋世界の歴史』近藤和彦編、186-196頁、山川出版社、1999年9月。
- ・「オスマン帝国のチューリップ時代(春期連続講演会「地中海:異文化の出会い」講演要旨)」『地中海学会月報』第222号、4頁、地中海学会、1999年9月。
- ・「オスマン帝国における君主の「家」と権力(外国社会における「家」の諸相)」『「家」の比較文明的考察』(公家と武家:2)、笠谷和比古編、470-493頁、思文閣出版、1999年11月。
- ・「文字と文化世界」『創文』第415号、6-9頁、創文社、1999年11月。
- ・「地中海世界を統一把握する」『「地中海」を読む』藤原書店編集部編、175-180頁、藤原書店、1999年12月。

2000年

- ・“Fransa Sefaretnamesi” Müellifi Yirmisekiz Çelebi Mehmed Efendi'nin Hayatına Ait Bazı Noktalar Üzerine,” *XII. Türk Tarihi Kongresi Bildiri*, pp. 1121-1124, Ankara: TTK, (in Turkish), 2000年。
- ・「イスタンブール物語 PART I」『アナトリアニュース』98号、日本・トルコ協会、2000年。
- ・「イスラム世界秩序とその変容—世界秩序の比較史への一視点(特集:アジアにおける近代国際法)」『東アジア近代史』第3号、1-20頁、ゆまに書房、2000年3月。
- ・「中東の近代と日本の近代—比較史の必要性について」『現代の中東』第28号、i頁、アジア経済研究所、2000年3月。
- ・「君府菜時記(1)羊肉と乳の文化」『世界史のしおり』第8号、13-14頁、帝国書院、2000年4月。
- ・『オスマン帝国の解体—文化世界と国民国家』(ちくま新書:242)、筑摩書房、2000年5月。
- ・「君府菜時記(2)甘味と砂糖」『世界史のしおり』第9号、13-14頁、帝国書院、2000年6月。
- ・「共存モデルを求めて—オスマン帝国とイスラム世界と」『ちくま』第352号、20-21頁、筑摩書房、

2000年7月。

- ・「自著を語る 21『オスマン帝国の解体—文化世界と国民国家』筑摩書房、2000年5月、238頁、660円」『地中海学会月報』第232号、6頁、地中海学会、2000年9月。
- ・「アジア読本—トルコ」(暮らしがわかるアジア読本)、河出書房新社、2000年10月。
- ・「オスマンの平和—宗教を軸にして多文化共存の大地」『聖教新聞』13570号、8面、聖教新聞社、2000年10月8日。

2001年

- ・“World Order, Political Unit, Identity: The Phenomenon of the “Nation State” in Comparative Perspective,” *State Formation and Ethnic Relations in the Middle East*, edited by Akira Usuki, Vol. 5, JCAS Symposium Series, pp. 1–9, Osaka: National Museum of Ethnology, 2001年。
- ・「君府菜時記(3) 香料」『世界史のしおり』第10号、11–12頁、帝国書院、2001年1月。
- ・「英京訪書記—トルコ語写本調査で感じたこと」『明日の東洋学』第5号、2–3頁、東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センター、2001年3月。
- ・「オスマン帝国における知と権力の担い手と政治過程の変容—イスラム史から宋代史への比較史的—一視点(比較史のなかで: 基点を離れて)」『知識人の諸相—中国宋代を基点として』伊原弘・小島毅編、129–141頁、勉誠出版、2001年4月。
- ・「前近代オスマン帝国の支配組織の構造」『人民の歴史学』第147号、12–23頁、東京歴史科学研究会、2001年4月。
- ・「コーランとイスラーム」『印刷博物誌』印刷博物誌編集委員会編、360–362頁、凸版印刷株式会社、2001年6月。
- ・「西アジア世界では」『印刷博物誌』印刷博物誌編集委員会編、434–437頁、凸版印刷株式会社、2001年6月。
- ・「イスラームにとっての印刷術」『印刷博物誌』印刷博物誌編集委員会編、438–439頁、凸版印刷株式会社、2001年6月。
- ・「水の都イスタンブール」『地中海学会月報』第243号、2頁、地中海学会、2001年10月。
- ・「アスケリー」「アブドゥルラフマン=シェレフ」「アフメト1世」「アフメト3世」「アフメト・ヴェフィク・パシャ」「アフメト・ハーシム」「アフメト・レフィク」「アリー・パシャ」「イエニチェリ」「イブラヒム・パシャ」「ヴェカイ・ハイリエ」「ヴァカニユヴィス」「エヴリヤ・チェレビ」「オスマン2世」「オスマン朝」「オリエント急行」「カーヌーン」「カプクル」「カプダン・パシャ」「カプ・ハルク」「ガラタサライ・リセ」「キヤーティブ・チェレビ」「ギュルハネ勅令」「キョプリュリユ家」「コチ・ベイ」「サダーレット・ケトヒュダース」「サライ」「サルナーメ」「ジェヴadet・パシャ」「スルタン・カリフ制」「スレイマン1世」「セラニキー」「セリム1世」「セリム3世」「タシュキョプリュザーデ」「テルジュマン」「チャンダルル家」「チューリップ時代」「ディヴァース・ヒュマユーン」「デヴシルメ」「デフデルダル」「トゥーラ」「ナイーマ」「ニザーム・ジェディト」「ニシャンジュ」「ネヴェシエヒルリ・イブラヒム・パシャ」「ビュズベク」「パシャ」「ヒュスレヴ・パシャ」「ヒュセイニ・ラフミー」「ファト・パシャ」「フェリドゥン・ベイ」「ブルサ」「マフムト2世」「マフムト・パシャ」「マフラス」「ミット」「ムハンマド常勝軍」「ムラト4世」「メジュレ」「メフメト2世」「メフメト・スレイヤー」「メフメト・ターヒル」「ラティーフィー」『角川世界史辞典』西川正雄ほか編、角川書店、2001年10月。

- ・「イスタンブールの居酒屋」『アル健協 News & Reports』第7巻第3号、公益社団法人アルコール健康医学協会、2001年11月。
- ・「奴隷も大臣になれた国—オスマン帝国(悠久の時のなかで：歴史の話)』『アジアを知れば世界が見える』東京大学東洋文化研究所編、202-213頁、小学館、2001年12月。

2002年

- ・「君府菜時記(3)野菜と野菜料理」『世界史のしおり』第11号、12-14頁、帝国書院、2002年1月、(実際には(4))。
- ・「イスタンブール都市物語—栄華と落日 千年の歴史を刻む三帝国の都」『週刊朝日百科・世界100都市—東洋と西洋の出会い街イスタンブール』通巻1358号、6-8頁、朝日新聞出版、2002年1月。
- ・「絹の道と香料の道が交わる場所 グランド・バザール」『週刊朝日百科・世界100都市—東洋と西洋の出会い街イスタンブール』通巻1358号、9頁、朝日新聞出版、2002年1月。
- ・「ハレム秘話—トプカプ宮殿の秘められた世界」『週刊朝日百科・世界100都市—東洋と西洋の出会い街イスタンブール』通巻1358号、14-15頁、朝日新聞出版、2002年1月。
- ・「トルコ・朝食の情景(カラー企画：世界の食の情景2)」『Vesta』45号、49-57頁、味の素の文化センター、2002年2月。
- ・「イスタンブール」「オスマン朝」「カプクル」「御前会議」「書誌」「石版本」「大宰相府」「パシヤ」「ルター」『岩波イスラーム辞典』大塚和夫ほか編、岩波書店、2002年2月。
- ・「オスマン帝国の成り立ち」『地域文化研究1—地中海世界の歴史像』(放送大学大学院教材：8910073-1-0211)、伊藤貞夫・樺山紘一編、178-191頁、放送大学教育振興会、2002年3月。
- ・「イスラームの共存のシステム」『地域文化研究1—地中海世界の歴史像』(放送大学大学院教材：8910073-1-0211)、伊藤貞夫・樺山紘一編、192-206頁、放送大学教育振興会、2002年3月。
- ・「オスマン帝国と民族問題の起源」『中央ユーラシアへの多角的アプローチ 中央ユーラシア調査会報告集』、92-95頁、財団法人アジアクラブ、2002年3月。
- ・「君府菜時記(5)魚」『世界史のしおり』第12号、17-18頁、帝国書院、2002年4月。
- ・「後期イスラームにおける食の文化と食の作法—伝統と変容」『イスラームとは何か—「世界史」の視点から』(別冊『環』：4)、262-269頁、藤原書店、2002年5月。
- ・「帝国の異文化集団支配—オスマン帝国の場合(内から外から)」『統治と権力』(岩波講座 天皇と王権を考える：2)、297-320頁、岩波書店、2002年6月。
- ・「祝祭都市イスタンブール(イスラーム世界の祭りと暦：イスラームの祭り)」『地中海の暦と祭り』(刀水歴史全書：56)、地中海学会編、140-141頁、刀水書房、2002年6月。

2003年

- ・『トルコ三大文明展 ヒッタイト帝国・ビザンツ帝国・オスマン帝国 *Three Great Civilizations in Turkey: The Hittite Empire, Byzantine Empire and Ottoman Empire*』NHK・NHK プロモーション編、NHK・NHK プロモーション、2003年。【監修・共同執筆】
- ・「研究者が語るトルコの魅力」『東京大学新聞』第2200号、2頁、東京大学新聞社、2003年1月。
- ・「君府菜時記(6)飲み物」『世界史のしおり』第13号、13-14頁、帝国書院、2003年1月。
- ・“From Central Asian Studies to Anatolian Studies: A Century of Turkish Studies in Japan,” *Orient*, vol. 38, pp. 117-134, Tokyo: Society for Near Eastern Studies in Japan, 2003年3月。

- ・「オスマン帝国の重層性(西アジアにおける国家と重層性)」『西アジア社会の重層的構造』(JCAS 連携研究成果報告:5)、松原正毅・後藤明編、123-134 頁、国立民族学博物館地域研究企画交流センター、2003 年 3 月。
- ・「暮らしが育てるまちと景観—アジアとヨーロッパが交差する都市・イスタンブル」『地域開発ニュース』第 277 号、28-31 頁、東京電力営業部、2003 年 3 月。
- ・『近代ヨーロッパ文明の成立』(図説世界の歴史:第 6 巻)、J.M. ロバーツ著・金原由紀子訳・鈴木董監修、創元社、2003 年 6 月。
- ・「あとがき:グローバリゼーションの歴史的起源を明らかとする書」『近代ヨーロッパ文明の成立』(図説世界の歴史:第 6 巻)、J.M. ロバーツ著・金原由紀子訳・鈴木董監修、260-269 頁、創元社、2003 年 6 月。
- ・「トルコの食文化」『Ajico News:食と健康の情報誌』No. 209、9-14 頁、味の素株式会社広報部、2003 年 6 月。
- ・「トプカプ短剣」秘話」『アナトリアニュース』108 号、22-24 頁、日本・トルコ協会、2003 年 8 月。
- ・「君府菜時記(7)トルコ食文化のなかの米」『世界史のしおり』第 21 号、18-19 頁、帝国書院、2003 年 9 月。
- ・「イスラームの共存システムの過去と現在」『21 世紀とイスラーム—その多様性と現代的課題』(地域研究講座)、慶應義塾大学地域研究センター編、143-181 頁、慶應義塾大学出版会、2003 年 9 月。
- ・「トルコ」(世界の食文化:9)、農山漁村文化協会、2003 年 10 月。
- ・「オスマン帝国の威光—スルタンの権力と富(特集:文明の十字路イスタンブル:トプカプ宮殿の至宝)」『季刊文化遺産』第 16 号、4-7 頁、島根県並河万里写真財団、2003 年 10 月。
- ・「トルコ料理の粋(特集:文明の十字路イスタンブル:トプカプ宮殿の至宝)」『季刊文化遺産』第 16 号、65-66 頁、島根県並河万里写真財団、2003 年 10 月。

2004 年

- ・「オスマンの家産官僚制とティマール体制(Session 4:封建制度と官僚制度)」『公家と武家—その比較文明的的研究』(国際シンポジウム:22)、笠谷和比古編、275-284 頁、国際日本文化研究センター、2004 年 1 月。
- ・「イスタンブルの豪奢」『地中海学会月報』第 269 号、3 頁、地中海学会、2004 年 4 月。
- ・「オスマン帝国と東アジア諸社会—知と権力の担い手の比較考察」『東アジア傳統時代のエリート—比較史的接近』、73-76 頁、成均館大学東アジア学術院・東京大学東洋文化研究所、2004 年 11 月。

2005 年

- ・“Japonya’da Batı Asya Tarihi Araştırmalarının Gelişimi,” *Role and Place of the Turkic Civilization among the World Civilizations, Bishkek, October 4-6, 2004*, pp. 577-583, Bishkek, 2005 年。
- ・「イスタンブル—三つの顔をもつ帝都」ジョン・フリーリ著・鈴木董監修・長縄忠訳、NTT 出版、2005 年 1 月。
- ・「オスマン帝国時代」『ギリシア史』(新版世界各国史:17)、桜井万里子編、215-270 頁、山川出版社、2005 年 3 月。
- ・「フランス革命とオスマン帝国」『フランス革命とヨーロッパ・アジアの近代化』第 2 号、80-95 頁、専修大学大学院社会知性開発センター、2005 年 3 月。

- ・「オスマンの官僚制とティマール制」『国際シンポジウム 公家と武家の比較文明史』笠谷和比古編、348-363頁、思文閣、2005年8月。
- ・「ウラマー」「ウンマ」「クルアーン」「ジハード」「シャリーア」『この1冊で世界がわかる宗教のキーワード』三木紀人・山形孝夫編、学燈社、2005年12月。

2006年

- ・“From Ottoman Literati to Modern Turkish Intellectuals,” *Proceedings of the Tobunken International Symposium on Elites in Asian History = Social Network and Cultural Representation, February 18–19, 2006*, pp.75–78, Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo, 2006年3月。
- ・『カフカース—二つの文明が交差する境界』鈴木董・木村崇・篠野志郎・早坂眞理編、彩流社、2006年11月。
- ・「序言：文化と文明の交差点としてのカフカース」『カフカース—二つの文明が交差する境界』鈴木董・木村崇・篠野志郎・早坂眞理編、7-13頁、彩流社、2006年11月。

2007年

- ・「トルコのEU加盟(特集：新しいヨーロッパ)」『アステイオン』67号、63-79頁、アステイオン編集委員会、2007年。
- ・『イスタンブール歴史紀行—トプカプ宮殿の至宝展—オスマン帝国を彩った女性たち』、朝日新聞社、2007年、【監修・共同執筆】。
- ・「イスラームについて考える」『行政研修ジャーナル』第38号、31-49頁、人事院公務員研修所、2007年。
- ・「東洋と西洋の接点 イスタンブール 第1回帝都イスタンブールとトプカプ宮殿」『EURASIA』176号、12-13頁、ユーラシア旅行社、2007年5月。
- ・「オスマン情緒と明治情緒」『シンポジウム「イスタンブールをめぐる日本とトルコの関係史と旧日本総領事館」2006年12月2日 報告書』、16-23頁、日本トルコ交流協会、2007年5月。
- ・「東西交通の海陸の大動脈とオスマン帝国」『波濤を超えてシルクロード』、10-11頁、専修大学公開シンポジウム実行委員会、2007年6月。
- ・「東洋と西洋の接点 イスタンブール 第2回モスクとムスリムの街づくり」『EURASIA』177号、14-15頁、ユーラシア旅行社、2007年6月。
- ・「東洋と西洋の接点 イスタンブール 第3回グラント・バザールとスパイス・バザール」『EURASIA』178号、14-15頁、ユーラシア旅行社、2007年7月。
- ・「第48回トルコの夕べ トプカプ宮殿の至宝とその背景(講演要旨)(特集：「トプカプ宮殿の至宝展」開幕)」『アナトリアニュース』120号、12-15頁、日本・トルコ協会、2007年8月。
- ・「イスラーム世界と百科事典—後期イスラーム世界を中心に」『百学連環—百科事典と博物図譜の饗宴(展覧会図録)』、8-9+24-31頁、印刷博物館、2007年9月。
- ・『ナショナリズムとイスラーム的共存』(『イスラームの家からバベルの塔へ—オスマン帝国における諸民族の統合と共存』(リポート1993年刊の改題新序附新装版)、千倉書房、2007年12月。

2008年

- ・「シンポジウムトルコから世界へ発信されたもの—トルコ料理は世界三大料理か?」(特集：日本と

- トルコ友好のかけ橋—エルトゥールル号回顧展」鈴木董・大蔵雄之助・今川香代子他談『アナトリアニュース』121号、15-21頁、日本・トルコ協会、2008年1月。
- ・「後期イスラム世界における紙と書物」『アジア古籍保全講演会記録集』（第1回～第3回（平成17～平成19年）、265-278頁、東京大学東洋文化研究所、2008年3月。
 - ・「比較史への思いを高めた史書—『戦史』—トッキディデース著—」『東京大学新聞』第2417号（通巻3517号）、5頁、東京大学新聞社、2008年3月22日。
 - ・「英京訪書記—トルコ語写本調査で感じたこと」『アジア学の明日にむけて』東京大学東洋文化研究所編、246-251頁、白峰社、2008年3月。（『明日の東洋学』第5号、2001年3月31日刊の再録）。
 - ・「イスラム世界の知の集積体—イスタンブールのスレイマニエ図書館」『（財）中近東文化センター附属三笠宮記念図書館 News Letter』第5号、1-2頁、2008年4月1日。
 - ・「伝統と近代の間で—トルコ史600年を往還する（1.トルコの歴史と文化：歴史と現在）」『トルコとは何か』（別冊『環』：14）、50-66頁、藤原書店、2008年5月。
 - ・「比較文明論（文明と文化）（イスラームの時空間：歴史、文明、地域）（研究案内）」『イスラーム世界研究マニュアル』小杉泰・林佳世子・東長靖編、190-194頁、名古屋大学出版会、2008年7月。

2009年

- ・「トルコの社会と食の「西洋化」の転換点—「西洋の衝撃」への応答（特集：変わりつづける『世界の食文化』）」『Vesta』74号、42-44頁、味の素食の文化センター、2009年5月。
- ・「オスマン帝国のフランス革命認識（18世紀末）」（抄訳と解説）『帝国と各地の抵抗 I—南アジア・中東・アフリカ』（『世界史史料』第8巻）、歴史学研究会編、112-113頁、岩波書店2009年10月。
- ・「トルコのコーヒー文化とコーヒーハウス—オスマン時代から共和国時代へ（万国喫茶往来 第6回）」『季刊民族学』第33巻第4号（第130号）、55-78頁、千里文化財団：国立民族学博物館、2009年10月。

2010年

- ・「新大陸からの渡来食材としてのトウガラシ—トルコ（胡椒を求めてトウガラシを得る：ヨーロッパ）」『トウガラシ讃歌』山本紀夫編著、77-85頁、八坂書房、2010年4月。

2011年

- ・「序文（特集：オスマン帝国史の諸問題）」『東洋文化』第91号、1-3頁、東京大学東洋文化研究所、2011年3月。
- ・「パシヤたちの変貌—比較史から見た最末期オスマン朝の支配エリートの特徴（「西洋化」改革から共和国へ）（特集：オスマン帝国史の諸問題）」『東洋文化』第91号、197-218頁、東京大学東洋文化研究所、2011年3月。
- ・「マント—トルコ・ギョウザとその背景（トルコ）（特集：世界の餃子とその仲間）」『Vesta』83号、24-25頁、味の素食の文化センター、2011年7月。
- ・「ドルマバフチェ宮殿の歴史」『ドルマバフチェ宮殿』どんぐりはうす編、4-7頁、日本トルコ交流協会、2011年9月。
- ・「自著を語る『東洋文化』第91号 特集—オスマン帝国史の諸問題」『日本トルコ交流協会ニューズレター』第7号、7頁、日本トルコ交流協会、2011年10月1日。

- ・「イスラーム世界の歴史を追う—正統カリフ時代からオスマン帝国の没落まで、その栄枯盛衰が一目でわかる! (保存版特集: イスラーム教入門)」『一個人』第13巻第1号(140号)、78-87頁、KKベストセラーズ、2011年11月。

2012年

- ・『オスマン帝国史の諸相』(東洋文化研究所叢刊: 第26輯)、鈴木董編、東京大学東洋文化研究所、2012年3月。
- ・「序: 本邦におけるオスマン史研究史私観」『オスマン帝国史の諸相』(東洋文化研究所叢刊: 第26輯)、鈴木董編、3-11頁、東京大学東洋文化研究所、2012年3月。
- ・「近代オスマン帝国の外交網の拡大過程—文化世界と近代西欧国際体系への参入の型についての比較史的考察—明治日本と清末中国との対比において(国際関係と交易)」『オスマン帝国史の諸相』(東洋文化研究所叢刊: 第26輯)、鈴木董編、14-39頁、東京大学東洋文化研究所、2012年3月。

2014年

- ・「比較文化史の人類文明史としての「世界史」への展望と文字世界としての文化世界(コラム 歴史の風)」『史學雑誌』第123編第1号、35-37頁、史学会、2014年1月。
- ・「日本とトルコで大使館が開かれるまで—近代外交システムの拡大と日本とトルコの常駐在外公館網の発展」『外交史料館報』第28号、1-31頁、外務省外交史料館、2014年3月。
- ・「オスマン帝国と第一次世界大戦(アジアへの波及)」『世界戦争』(現代の起点 第一次世界大戦: 1)、山室信一他編、233-256頁、岩波書店、2014年4月。

2015年

- ・「東洋文庫所蔵のオスマン語及び欧文稀観書の白眉について(東洋学の宝庫、東洋文庫へのいざない)」『アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究』東洋文庫編、303-324頁、2015年3月。